

香友会だより

あいさつ



同窓会会長
谷本 智昭

香友会の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より香友会並びに母校のためにご理解とご尽力を賜り心からお礼申し上げます。

母校は創立百周年を平成二十三年度に迎えました。月日の経つのは早く今年にもう2年目となります。記念事業の一つとして、百周年記念庭園の整備とその中心にモニュメントを設置しましたが、今年4月入学式に出席した折、傍を通ると庭木の樹木はしっかり根付き、緑も多くあり生徒たちの憩いの空間になっていると感じました。卒業生の皆様も母校のお近くに來られたときは、一度立ち寄ってみてください。

さて、母校はこれから校舎の改築が計画されているようです。校長先生からこの件についてお話があり、現在基本設計に着手しているが、中庭にヒマラヤスギが2本あり、案と

しては2本とも残す方向で努力しているとのことでした。同窓会としても残していただけるなら有難いと思っていました。

しかし、計画の進捗に伴い、校舎を3階建てにするという県の意向で1階の校舎面積が広がり、ヒマラヤスギの伐採か、移植かという問題が出てきました。再度校長先生からご相談があり、同窓会としては、まず役員会で協議し、次に理事会そして総会に諮ることとして、今年1月から3月にかけて役員会を3回開催いたしました。

役員会では双方の意見が出て一つにまとめるのに苦労しましたが、最終的には1本を移植する方向となりました。その際、試掘して移植に耐えられる根かどうか調べることや根の活着をよくする環状除皮を今春にする必要がありますので、これらの費用は同窓会が負担することで実施いたしました。そして本体の移植費用は県にお願いすることになりました。

同窓会負担の費用については、創立周年記念事業基金会計から支出を原案に、理事会及び8月の総会で協

議したいと考えております。事情をご理解下さり、どうかよろしくお願い申し上げます。

ところで、大変おめでたく誇らしいことですが、同窓会から関取が誕生しました。春場所、幕下全勝優勝を飾り、新十両を決めた亀井改め希善龍関です。四月二十日に旧善通寺偕行社で十両昇進祝賀会があり、同窓会から河野副会長さん、町川理事さん、会長が出席し激励をしてきました。すぐ夏場所ですが、多くのファンのためにも頑張つてほしいと思います。希善龍の今後ますますのご活躍を会員とともに期待したいと思

います。最後に、会員皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。ごあいさつといたします。

あいさつ



校長
溝渕 祥民

新緑に芽生えた木々の葉が梅雨に潤い、日増しに濃く深まりゆく時節



発行者

香川県立高松南高等学校
同窓会会長 谷本智昭
香川県高松市一宮町531
印刷所 (株)中央印刷所

となりまして。香友会の皆様におかれましては、ますますご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃は、本校の教育に深いご理解とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本校では、昨年度から今年度の二カ年をかけ、建物の老朽化に伴う第一校舎と第二校舎の全面的な改築を行うため、準備段階として、設計事業を進めているところです。

正門を入って真正面、時計のある三階建の建物は、昭和三十一年、第一校舎中央棟として、落成しました。ここに始まった校舎の鉄筋化と集中化は昭和四十年代に進展します。十余年の歳月を経て、その中央棟から東西へ長尺に連なる第一校舎とその北側に並ぶ第二校舎の容容は、昭和五十年代前半までに整えられたところです。

平成の時代からは幾度かの改修を重ねて施設の機能維持に努めてきました。しかし、それにも限りがあり、来年度より、第二期工事として、第一校舎中央棟から西の部分の撤去し、新たな校舎を建設することとなっております。その後の第二期工事では、

第一校舎の残る東部分の全部改築が計画されています。

これに伴いヒマラヤスギに移植の必要が生じています。中庭に聳える樹高二十メートルに達するヒマラヤスギは、本校創立直後、大正年間の早い時期に植樹されたものと言われています。爾来、百年近くの星霜、この学び舎に集まり散じた若人たちを見守り続けてきたのです。二本の木々は、その種では県下で最も古いものに属することは確かとされ、今や南高のシンボルと言っても過言ではありません。

校史を緋けば、北校地のイチヨウ並木やカイヅカイブキ等が、その時々校舎建築の際に移植されて、ただ今の場に息づいていることがわかります。ヒマラヤスギも、少なくとも一本は、第一期工事の際、本校の象徴としてふさわしい場所に移植するよう既に準備を進めています。

高校生たちが多感な青年期を過ごす教育の場として、本校のゆつたりとした校地や校舎配置、さらには、それらを包み込む緑あふれる豊かな自然など、恵まれた環境には感じ入るばかりです。これらも長い歴史と伝統が醸し出す貴重な学校の財産にほかなりません。同窓会員各位並びに諸先輩方には感謝の念を抱きつつ、これからも、子どもたちに物心両面でよい教育環境を維持・提供し続けたいと考えています。今後ともよろしくご指導とご鞭撻を下さるようをお願いしまして、ごあいさつといたします。